

2026 年 9 月 25 日

臨地実習施設
施設長(代表者)各位

文部科学省委託事業「学士課程における看護学実習の充実のための調査研究」
事業運営責任者 JANPU 常任理事 鎌倉やよい
一般社団法人日本看護系大学協議会(JANPU)

【学士課程における看護学実習の充実のための調査研究
:事業1. 参加型臨地実習実現に向けた課題の調査とモデルの開発】
看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく参加型臨地実習ガイドラインに包含すべき骨子案の特定
— 修正デルファイ法による合意形成 — へのご協力のお願い

平素より一般社団法人日本看護系大学協議会(以下、JANPU)の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、JANPU では文部科学省より令和 7 年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究『学士課程における看護学教育の質向上に向けた調査研究』テーマA:学士課程における看護学実習の充実のための調査研究」を受託し、令和 8 年度事業として「看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく参加型臨地実習ガイドラインに包含すべき骨子案の特定— 修正デルファイ法による合意形成 —」を実施いたします。

本研究は、委託事業の2025年度研究成果として得られた、「参加型臨地実習ガイドライン」を構成する骨子項目について、修正デルファイ法を用いて、専門家による各骨子項目の妥当性と実現可能性を調査し合意形成を導くものです。

つきましては、本調査の趣旨(下記内容)をご理解頂き、修正デルファイ法の調査にご参加いただくことのできる専門家としての適任者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。ご推薦いただいた適任者について、ご所属の設置種別、ご専門等、多様性の観点からご依頼する専門家を確定させていただき、修正デルファイ法の調査のご回答をお願いする予定です。

ご推薦いただくにあたり、本調査の概要、目的、専門家の推薦依頼内容、修正デルファイ法による 2 回の調査と専門家会議、事業実施体制、個人情報保護等を記しましたので、ご確認くださいようお願い申し上げます。

本事業並びに本調査研究に関するご質問等がございましたら、3頁の問い合わせ先までご連絡ください。

■推薦方法:右記 QR コードもしくは下記 URL のフォームよりご回答をお願いいたします。

<https://forms.gle/dqCeToFAMDMliT9e7>

■推薦者:看護学士課程の臨地実習施設における看護の責任者

■推薦内容:参加型臨地実習ガイドラインを構成する骨子案の妥当性と実現可能性の調査及び
調査後に開催する専門家会議にご参加いただく専門家のご推薦
以下の要件すべてを満たす看護師について、推薦することの内諾を得て推薦してください。
専門家の要件:①看護学士課程の臨地実習に対する施設の統括責任者の経験があること
②看護学士課程の領域別臨地実習の指導の経験があること

■推薦期限:2026 年 10 月 5 日(月)午前 9 時まで

■調査票の質問項目一覧:<https://www.janpu.or.jp/file/SANKA2026No.2.pdf>



1. 調査概要

令和8年度事業では、看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版(以下、看護学教育コアカリ)に基づく参加型臨地実習ガイドライン(案)を作成することが目的です。令和7年度には、参加型臨地実習を促進する要因を調査し、研究成果として参加型臨地実習ガイドラインを構成する骨子として108項目を確定しました。

令和8年度事業として、修正デルファイ法を用いて各骨子項目の妥当性と実現可能性を各々9段階のリッカートスケールで調査し、加えて有識者会議で示された6項目について自由記述を求める第1ラウンドの調査を行います。さらに、修正デルファイ法の調査結果に基づき、第2ラウンドとして専門家会議をオンラインで開催し合意に至らなかった骨子項目について、意見交換によって合意形成を図る予定です。この後、第3ラウンドとして合意に至らなかった骨子項目について、第1ラウンドと同様に調査します。この結果に基づき、文章化して参加型臨地実習ガイドライン(案)を作成いたします。

また、参加型臨地実習で評価されるべきミニマムの【資質・能力】について、令和7年度調査で明らかになりましたので、別の修正デルファイ法による調査で教育内容を特定いたします。これらも参加型臨地実習ガイドライン(案)に登載する予定です。

この後、有識者会議を開催し、広く意見収集を行い、修正を行い「参加型臨地実習ガイドライン(案)」を確定いたします。この案に基づき、令和9年度には実証事業を行う予定であり、看護学士課程と当該実習施設へ参加を募集する予定です。

2. 本調査の目的

参加型臨地実習を実現するために、令和7年度の成果として示された、参加型臨地実習ガイドラインを構成する骨子項目案について、各項目の妥当性と実現可能性を各9段階のリッカートスケールで調査し、合意形成に至った骨子項目を明示します。加えて、有識者会議で示された6項目について、自由記述によってご意見と好事例等を得る予定です。

さらに、先の調査の結果、合意に至らなかった骨子項目について、専門家会議において意見交換によって合意形成を図る予定です。

以上の修正デルファイ法の手続きによって、参加型臨地実習ガイドラインを構成する骨子を確定することを目的とします。

3. 専門家の推薦依頼内容

専門家の推薦:看護学士課程看護学臨地実習施設の看護の責任者にご回答ください。専門家として以下の要件すべてを満たす看護師について、推薦することの内諾を得て推薦してください。

専門家の要件:①看護学士課程の臨地実習に対する施設の統括責任者の経験があること
②看護学士課程の領域別臨地実習の指導の経験があること

結果の通知:所属施設の種別、施設の看護師数、職位等、多様性の観点から専門家を決定する予定です。

選出結果は、推薦された専門家のメールアドレスに通知します。

修正デルファイ法調査及び専門家会議の概要等:以下の項に記述しますので、ご確認ください。

4. 第1ラウンド・第3ラウンド(調査内容)

調査方法:Google フォームを用いた無記名の Web 調査方式(ただし、第1ラウンド(調査)では、回答者に専門家会議への出席を求めるため、メールアドレスの記載を求め、JANPU 事務局が保管する。)

調査項目数:基本属性 6 項目、リッカートスケール調査 108 項目、自由記述 6 項目

第1ラウンド(調査)実施予定時期:2026年10月上旬

第3ラウンド(調査)実施予定時期:専門家会議終了後2026年11月上旬

回答時間:第1ラウンド調査約60分、第3ラウンド調査約30分

(調査票の質問項目一覧を JANPU ホームページに登載:<https://www.janpu.or.jp/file/SANKA2026No.2.pdf>)

調査内容：

- ・基本属性：所属施設の種別、施設の看護師数、職位、臨地実習統括責任者の総期間、臨地実習指導者の総期間、年齢層、看護師歴
- ・リッカートスケール(9段階)：参加型臨地実習ガイドライン(案)を構成する骨子(案)108項目について、妥当性と実現可能性について9段階のリッカートスケール
- ・自由記述：有識者会議での参加型臨地実習全体に対する意見6項目

5. 第2ラウンド(専門家会議)

会議概要：オンライン会議として開催します。

修正デルファイ法による調査結果として合意形成に至らなかった骨子項目について、意見交換し合意形成を導くことを目的とします。

専門家会議実施予定時期：10月下旬、日程調整を行って実施します。

6. 事業実施体制

JANPU に「学士課程における看護学実習の充実のための調査研究委員会」を置き、研究を遂行します。参加型臨地実習ガイドラインの作成を目的とする事業1については、鎌倉常任理事が責任者であり、副責任者は吉沢看護学教育質向上委員会委員長及び西村常任理事です。委員として6名が配置されています。

7. 個人情報の保護

専門家としてご推薦いただいた教員名及びメールアドレスは、JANPU 事務局で管理し、修正デルファイ法の調査及び専門家会議の連絡、並びに謝金のお支払いに使用します。修正デルファイ法の調査(第1ラウンド・第3ラウンド)は、無記名自記式による Web 調査であり、回答と個人の氏名を連結することはありません。ただし、第1ラウンド(調査)では、回答者に第2ラウンドを依頼するため、第3ラウンドでは謝金の支払いのため、回答にメールアドレスの記載を求めます。研究参加の専門家の意思で URL にアクセスして回答することを求めること、研究参加の同意のチェック欄を設けるため、研究参加者の自由意思を尊重いたします。

また、専門家会議(Web)においては、意見交換によって合意形成するため、氏名を使用し、議事録アプリを用いて議事内容を記録します。この段階では参加者氏名が記載されますが、最終的な議事録には氏名を記号化するので、議事録に個人名が残ることはありません。ただし、氏名と記号の対応表を作成し、JANPU 事務局で保管します。意見の内容に関する確認が必要となったときには、日時、目的等記録の上、事務局担当者が対応表によって氏名を確認して研究者に回答する手続きとします。

また、研究データは本研究の目的以外に使用することはない、公表後 10 年間は研究データを保管し、その後復元不可能な状態で破棄します。

8. 研究に関する情報公開の方法

本研究の成果報告書は、2027 年(令和 9 年)3 月 31 日に文部科学省へ提出し、その後に文部科学省のホームページに公開されます。また、学術雑誌への投稿、学会発表、委託事業報告書としてのまとめなど、学術的手続きに基づいて公表します。公表は匿名性とプライバシー保護に配慮し、調査対象者や所属機関が特定されることはありません。また、研究の透明性および研究対象者の権利を尊重するため、JANPU のホームページ等を通じて研究概要・対象者への説明依頼の周知・閲覧可能なように対応します。

9. 研究対象者に生じる負担、予測されるリスクおよび利益

回答する時間の拘束と通信費の負担が生じることが予測されます。本研究に参加することで、今後、参加型臨地実習を実現するための参加型実習ガイドラインの策定に貢献します。本研究では、第3ラウンドまで調査にご協力いただいた専門家へ薄謝ですが1万円の謝礼を準備しています。

10. 研究参加の自由意思と同意しないことによる不利益

本研究は自由意思による参加を保証いたします。また、本研究の参加の諾否によって不利益が生じることは全くありません。同意撤回については、本研究が無記名自記式による Web 調査であるため、同意後(回答後)

の撤回はできないことをあらかじめご了解ください。ただし、専門家会議への参加については、事前に参加の諾否を確認させていただきます。

11. 研究資金について

本研究は、文部科学省令和7年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」の委託事業として実施され、令和9年度までの3年間、必要な費用はすべて当該事業から支出されます。本研究は、文部科学省の資金によって独立して行われ、企業やその他の第三者が本研究の計画・実施・解析・公表に関与することはありません。

12. 本研究の実施体制

「学士課程における看護学実習の充実のための調査研究委員会」が所掌する。

事業責任者 ・ 事業1責任者 : 鎌倉やよい(JANPU・常任理事)

事業運営責任者・事業1副責任者: 西村礼子(JANPU・常任理事)

事業1副責任者: 吉沢豊子(JANPU・理事・看護学教育質向上委員会委員長)

委員: 南谷志野、森田一三、北川明、佐藤政枝、布施淳子、飛田伊都子

13. 問い合わせ先

本事業・研究に関するご質問等がございましたら下記連絡先までご連絡下さい。

【本調査研究に関する問い合わせ先】一般社団法人 日本看護系大学協議会

一般社団法人日本看護系大学協議会 事務局

電話:03-6206-9451(連絡対応時間: 9:30-16:30) E-mail:office@janpu.or.jp

日本看護系大学協議会 鎌倉やよい

E-mail:gigyo@janpu.or.jp

14. 苦情の窓口

本事業・研究に関する苦情の窓口は以下のとおりです。

日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会事務局

電話:0565-36-5111(内線 321) E-mail:kenkyu-rinri@rctoyota.ac.jp

本調査は日本赤十字豊田看護大学 研究倫理審査委員会にて、多機関共同研究による一括審査の承認【承認番号:2622 号(2026 年 9 月 15 日)】を得て実施しております。